

平成28年3月11日

平成27年度 第2回「学校関係者評価委員会」年度末報告

1 概要

(1) 日時 3月11日(金) 15時00分～16時30分

(2) 場所 広島城北中・高等学校 第2会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員	三田戸坂城山小学校校長 丹戸坂中学校校長(ご欠席) 佐伯同窓会副会長 佐藤PTA会長
教職員	岩本校長 藤田副校長 中川教頭 二宮総務部長 藤岡教務部長 下木進路指導部長 宮本生徒部長 船本生徒指導部員(勝間生徒指導部長代理) 亀田入試広報部長 ブランチ国際理解教育部長 黒瀬(真)保健部員(中野保健部長代理)

2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介後、中間評価において明らかになった課題について、各部から下半期の取組について現状を報告した。

(1) 生徒指導部より

- 手帳を利用した規律ある生活習慣の確立について
- 登下校中の公共交通機関内でのマナー改善について

(2) 保健部より

- 教育相談体制の確立について

- カウンセラーと各学年会との連携について
- (3) 総務部より
 - 学校行事の改善及び評価について
 - 各行事と授業時間数の確保について
 - 生徒部と連携を取りながら、生徒が帰属意識を高めることに繋がる行事の精選について
- (4) 生徒部より
 - 中高一貫校の特色を生かした学校行事について
- (5) 国際理解教育部より
 - 海外研修、海外修学旅行等のグランドデザインについて
- (6) 教務部より
 - 教育改革を視野に入れた授業シラバスの改善について
 - アクティブ・ラーニング推進のための研修会について
 - アクティブ・ラーニングを推進している教科・授業について
- (7) 進路指導部より
 - 学習に対する高い意識を持ち続けるための取組について
 - 自ら学習に向かう生徒の意識を喚起するための取組について
- (8) 入試広報部より
 - 塾との連携状況について
 - 学校説明会、入試説明会におけるアンケートの評価について
 - 生徒募集をテーマとする校内研修会の開催について
 - 改訂した学校紹介冊子、リーフレット等の活用について
 - 各入試説明会等に関するアンケートの分析（概ね高い評価を頂いた。）

3 各評価委員からの意見及び助言

- ① 前回も指摘したが評価項目の数を今少し精選すべきではないか。
- ② 評価指標と達成目標が混在している印象がある部分を改善すべきである。
- ③ 行動目標をもとに成果指標にリンクさせると、生徒の姿が見えやすくなるのではないか。
- ④ 4点固定の4点とは何か、またそのねらいは何か。
- ⑤ 各部の説明を聞いていると真摯に自己評価をされているという印象を持つが、今少し自信をもって達成されたものは高い自己評価であっても良い

と思う。

- ⑥ いわゆる中だるみと言われる中学3年から高校1年の家庭学習時間を増やす取組や手立てを行ってはどうか。
- ⑦ 授業シラバスは生徒にも公表して授業を活性化させて欲しい。(生徒には配布している。保護者も閲覧できる。)
- ⑧ 学校で組織的に行っている生徒の授業評価を有効活用して授業改善に繋げて欲しい。
- ⑨ 特別指導の回数が高校に比べて中学が多いのはなぜなのか。
(発達段階であり未成熟な部分によるトラブルと認識している。)
- ⑩ 小学校にとっても参考となる内容がたくさんあった。今少し、行動目標に対する成果目標を整理すると分かりやすくなると思う。
- ⑪ 今後は教職員の声、保護者の声等をアンケートに盛り込み、それを活かして来年度へ繋げて欲しい。それが子供の意欲に繋がるのでは。
- ⑫ OBの立場からするとこれからの私学はやはり進学実績が大きな位置を占めると思う。城北の卒業生であると胸を張って言える生徒を育てて欲しい。地元の財界では「石を投げると城北の卒業生にあたる」と言われるまで卒業生は健闘している。大切にしたい。
- ⑬ 自己評価は大学でも実施しているが、しんどい部分もあるなかで良く努力されていると思う。
- ⑭ 保護者としてはやはり出口のところに関心が高いことを念頭において教育活動を展開していただきたい。
- ⑮ アクティブ・ラーニングに注力していることは素晴らしい。今後アクティブ・ラーニングはまちがいなく大学入試を大きく変えるものになる。大学入試における面接の内容もそれに呼応した内容に改訂されている。継続的に取り組んで欲しい。
- ⑯ 高大接続も今後、5、6年先を見据えた内容の準備が進められている。